金ケ瀬地区の人口と世帯数
令和2年4月30日現在（前月比）

人 口	3,574 人	（－ 3）
男 性	1,768 人	（－ 5）
女 性	1,806 人	（＋ 2）
世帯数	1,358 戸	（＋ 4）

こんにちは！ 金ケ瀬公民館です

2020
第334号
5月

６月７日（日）まで金ケ瀬公民館の閉館を延長します

新型コロナウイルス感染防止のため、閉館期間を６月７日（日）まで延長いたします。
※閉館期間の延長などの情報は公民館たよりのほか、町発刊の「おしらせばん」でもお伝えいたします。
※出張所での住民票等の発行業務は行っています。

こいのぼり、公民館の空を悠々と

鯉のぼりの季節を迎えました。 こんな時期だからこそ、少しでも季節の趣を感じたいですね。公民館にある鯉のぼりの多くは金ケ瀬の皆さんにお譲りいただいたもので、大きくて驚きのサイズ。

青空を元気に泳ぐ鯉のぼりは、子どもたちを見守っています。

生涯学習ガイドの発行中止について

新型コロナウイルス感染防止のため、金ケ瀬公民館主催事業を当面の間休止いたします。

つきましては、上半期の生涯学習ガイドの発行を行いませんのでご理解のほどよろしくお願いします。

金ケ瀬地区バレーボール大会は中止いたします

６月２１日に開催を予定していた金ケ瀬地区バレーボール大会は新型コロナウイルス感染防止のため、中止させていただきます。楽しみにされていた選手の皆様には申し訳ありませんが、ご理解いただきますようお願いいたします。

金ケ瀬公民館の歴史探訪　第1回 奥州街道と金ケ瀬宿

奥州街道は、江戸時代の五街道の一つとして、江戸日本橋を起点に千住から白河へと至る街道ですが、現在、白河以北の国道4号の区間が奥州街道と呼ばれています。

奥州街道の名残の場所小豆坂（赤坂）

江戸時代、街道には宿泊、人馬継立※1、運送及び通信の業務を行うための宿場が整備されました。金ケ瀬も大河原と共に、宿駅※2 としての業務を行ってきた町場でした。

さて、金ケ瀬宿がいつ成立したかについては、金ケ瀬宿の検断※3、鈴木弥五右エ門の家系図によれば、「その先祖鈴木美濃なるもの、永禄年中（1558～1570年）、金ケ瀬に移住しついにその駅吏となる」とあります。

ただし、ここで言う金ケ瀬宿は、現在の大河原町金ケ瀬ではなく、刈田郡宮村、現在の篭石辺りからニツ坂辺りにかけて、川辺にあったと思われる金ケ瀬宿になります。寛永14(1637)年の大洪水の際に、宿場町全集落が押し流されてしまい、宮村の地内に再興できる場所が見当たらなかったので、領主の片倉重長が、伊達藩主忠宗に請願して、柴田郡平村の畑地を拝領して宅地とし, 寛永19(1642)年、平村の地内に金ケ瀬宿場が再興されたのでした。当時は40数軒の小さな宿場町であったため、御伝馬、いわゆる乗り継ぎの業務などもできかねる状態にあったことから、金ケ瀬宿の人々が宿駅業務の改善を度々お上に願い出ました。そして、金ケ瀬宿が出来てから79年後の享保6(1721)年 に、今までの金ケ瀬宿本町の続きに宅地を造成して屋敷割りを行い新しい宿場町、新町を作りました。ここに平村の人頭（本百姓）· 名子（本百姓に隷属した百姓）合わせて93人を強制的に移転させ、伝馬などの宿駅業務に就かせました。残った34件は宿場町裏に住んだままで宿駅業務に就くように申し渡されたのでした。
平村の金ケ瀬宿場新町は、享保6(1721)年に平村から移転した際に新町を含めて『刈田郡金ケ瀬町』という宿場町とすると決められて刈田郡扱いとなっており、田畑、人員については『柴田郡平村』ということにして、柴田郡扱いとすることになっています。金ケ瀬宿場町の本町の長さは三丁十二間（約350m）、家数44軒。新町の長さは八丁（約860m）、家数九十三軒、合わせて長さは十一丁十二間（約1200m）、家数は137軒あります。隣接する大河原宿へは三十丁（約3200m）、宮宿へは一里十二丁（約5200m）でした。

※1　人馬継立（じんばつぎたて）：街道を運ばれる荷物の、宿駅での「人足と馬の交代」をいう。
※2　宿駅（しゅくえき）：交通路の便利な地点で旅人を宿泊させ、荷物運搬の人馬を継立てる設備のあるところ。
※3　検断（けんだん）：町場の取り締まりと人夫や伝馬の継立を任務とし、肝入と共に町民の代表役であった。

◎5月・6月の休館日

6月7日（日）まで閉館、6月8日、6月15日

◎図書室の休館日

6月7日（日）まで閉館、土曜日、日曜日、月曜日

令和元年5月15日発行/大河原町金ケ瀬公民館　TEL52－6635　FAX52－6736